

# 通信型DRシステム導入

## 輸送品質向上を一層推進

### タツミトランスポート

【埼玉】海上コンテナ輸送のタツミトランスポート（小笠原龍実社長、埼玉県所沢市）は、タイガー（竹添幸男社長、東京都千代田区）が提供する通信型ドライブレコーダー（DR）管理システム「WEBドラサービス」をトラック70台に導入し、輸送品質向上と事故防止対策の一層の推進に努めている。

同サービスは、ドライブレコーダー製の通信型DR「Samly」を使用。運転動画を記録・撮影するだけのDRと異なり、急ブレーキ急ハンドルといった危険運転を自動的に判定して10秒の動画にまとめ、WEBドラサービスに随時アップロー

ドする。通信機能により、長時間のアイドリング、速度超過などをリアルタイムに



運行管理者のパソコン画面上に表示が可能で、突発イベントが危険回避動作によるものか、漫然運転に起因したものを判断しやすくなった。タツミトランスポートが導入していたDRもドライブレコーダー製で、長期間にわたる運用中に大きな故障がなかったこともあり、信頼性の高さも導入の後押しとなった。

タイガーの管理システムが使用するドライブレコーダー製の通信型DR「Samly」

小笠原社長は「ヒヤリ・ハット事案はドライバーの申告に基づくほか無かったのを考えると、運行管理上のメリットは大きい。法令順守での運転を心掛けていれば、もちろん事故が発生した場合でも過失が無いことを証明できる。ドライバー自身の身を守る装置でもあることを理解してもらおうと取り組んでいる。『攻めの指導ができる』のが強み」と説明する。

2016年10月から、2台に試験的に採用し、運用を開始。京浜港と埼玉県周辺の輸送が中心となる同社では、重大事故は発生していないが、映像を用いて乗務後の点検時の指導などに活用。今後、更なる安全意識の醸成を図っていく。（小瀬川厚）